可茂農林事務所の普及活動状況　令和７年 11 月 28 日現在

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■美濃加茂地域における今後の水稲品種について検討　水稲・ＪＡめぐみの美濃加茂地域担当者

【高温耐性品種を検討する関係者】

本年度、農林事務所では美濃加茂市内で、高温耐性品種の特性把握に取り組んだ。

11 月 10 日にＪＡめぐみの美濃加茂地域の水稲品種検討会議に出席し、岐阜県育成の高温耐性品種「清流のめぐみ」および同じく高温耐性を有する「にじのきらめき」の生育状況、株の姿、収量性、品質の特徴を説明し、今後の取り扱い方針等を検討した。

２品種の評価は高く、今冬に生産者へ品種に関する意向確認を実施するとともに、現在地域に導入されている品種から高温耐性品種への変更方針案を周知することとした。

農林事務所は、今後の県奨励品種への決定を想定し、地域に適した高温耐性品種の早期の普及、安定生産の実現に向けた活動を継続する。　（地域支援第一係）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■柿の高温障害対策実証に取り組む　柿・美濃加茂市山之上地区生産者

【実証ほの調査状況】

美濃加茂市山之上地区では、梨と組み合わせて柿を栽培している。令和６年は夏秋期の高温で日焼け果が多発し、着色も遅れ、出荷量が減少した。そこで農林事務所は、高温障害軽減を目的に、当地区では通常行われない袋がけによる実証調査を実施した。

８月上旬、柿園２か所で富有柿に果実袋をかけ、被覆資材の有無による調査ほを設置。11 月中旬に最終調査を行い、袋の有無による高温障害や生育を比較した。

結果、袋無し区では約 30%の果実に日焼けが発生したが、袋有り区では発生せず、袋がけの効果が確認できた。果実の大きさや着色進度に明確な差はなく、カメムシ被害は袋有り区で少ない傾向であった。

農林事務所は、この結果を生産者に共有し、高温障害対策技術の確立に取り組んでいく。

（園芸産地支援係）

中山間地域を守り育てる対策

■水稲有機栽培マニュアル作成に向けた取組み　白川町有機の里づくり協議会

【６月水田抑草機の様子】

白川町有機の里づくり協議会ではグリーンな栽培体系加速化事業に取り組み、水稲有機栽培の面積拡大に向けた省力化技術を検討している。白川町黒川の有機への転換ほ場において、有機肥料、水管理センサー、水田抑草機を試用し検証した。

農林事務所は、ＪＡめぐみのとともに水稲の生育状況や収量、雑草や病害虫の発生状況等の調査を行い、11 月 11 日にオンラインで開催された白川町有機の里づくり協議会役員会で、慣行栽培と比較した収量や品質等の調査結果を報告した。

今後、労力の省力化やコスト面での効果について実証生産者を中心に協議会で検証し、水稲有機栽培マニュアル作成に向けて継続して支援していく。　（地域支援第二係）